15号
令和2年10月1日発行

医療法人社団 中川会 広報誌

あさがお通信

新任医師ご挨拶 …… 1
「With コロナ」 呉中通病院としての取組み …… 2
「With コロナ」 介護医療院グリーン三条としての取り組み …… 3
呉中通病院 新MRI始動～新技術の詰まった中四国初導入の機器～ …… 4
訪問リハビリテーション一周年 …… 5
地域連携室便り（呉中通病院） …… 6
居宅介護支援事業所便り（中川会） …… 6
介護支援相談室便り（グリーン三条） …… 6
全病棟365日リハビリテーション開始（呉中通病院）
～信頼される回復期を担う病院を目指して～ …… 7
中川会 BCP作成はじめました …… 7
院内チーム紹介 栄養サポートチームNST …… 8

新任医師ご挨拶

4月より呉中通病院リハビリテーション部長として赴任しました丸石正治（まるいしまさはる）です。

呉中通病院では脳神経疾患のリハビリテーション医療を担当するとともに、法人では理念である「医療と福祉を通じて呉地域で１番の施設となる」よう、働かせていただくことになりました。

これまでのキャリアの集大成として、先進的で充実したリハビリテーション医療を提供していきたいと思います。幸いなことに中川会には整形外科・脳神経外科を中心とした医療体制が整っていますので、必ずや全国に誇れる施設になれると信じています。

チーム医療とは助け合うこと、微力ながらお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

呉中通病院
リハビリテーション部長
丸 石　正 治

《役職》 医療法人中川会法人本部長、呉中通病院リハビリテーション部長
《専門・得意分野》 脳神経疾患リハビリテーション、高次脳機能障害
《資格》 日本脳神経外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会専門医&指導医
《出身大学》 防衛医科大学校
《経歴》 北海道大学医学部リハビリテーション医学講座助手
広島県高次脳機能センター長
県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科教授
医療法人健応会理事長
広島大学客員教授
《医師になりたいと思うようになった時期と理由》
物心ついた頃、脳障害についていろいろ思うようになりました。
《趣味・特技》 **趣味**…ペットと遊ぶこと、ガーデニング **特技**…ありません
《健康のために気をつけていること》 血圧と体重
《患者さま・皆さまに一言》 脳卒中などの後遺症でお困りのときはご相談ください。

「With コロナ」　呉中通病院としての取組み

呉中通病院
副院長
中川　豪

「Withコロナ」

この言葉を、「コロナと仲良くしましょう」「コロナと人間は共存しましょう」と受け止める方もいるかもしれませんが、重症化する感染症は常に生命の敵であり共存はあり得ません。

ではなぜこの言葉が用いられるか。

「感染症の蔓延を防止する」と「経済活動を行う」は元々相反したものです。

前者は人の移動と集合を止めなければならず、後者は人が移動して集合しないと停滞・縮小していきます。

いまだワクチンのないウイルス感染症を克服するためには「経済活動を止め、実効再生産数を減らす」しかないのですが「経済活動を止めた人は補償がなければ死んでしまう」という別の生命リスクが生じます。となれば、補償をする体制を整えればコロナは解決するのですが、国や自治体はそんな財政支出はできないというスタンスです。

そこで考え出されたのが「Withコロナ」という言葉です。「今の国や自治体にはコロナを解決する手段がないので、経済活動を緩めずに、市民一人一人が自己防衛をしてください」ということです。

では医療機関はどう対応するか。実は他の企業や自営業ほど「感染症の蔓延を防止する」と「経済活動を行う」は相反したものではないのです。コロナがひとたび医療機関内に広がると業務の停止・停滞となり、市民の健康を守るための機能が維持運営できなくなり閉院しないといけない状態も生じてきます。そのため、コストや業務負担は通常よりかかりますが、他の企業や自営業よりも強い防御態勢をしく必要性と有益性があります。

現在当院では、患者さま・ご家族をはじめ、取引業者そして当院職員にも、（市内に陽性者がいるか否かなど）蔓延状況のフェーズごとに、面会禁止やエントランスでの検温など様々な制限に対するご協力をいただいております。

フェーズの変化に対しては、素早く幹部会議を開き防御態勢の確認・指示を行い、全職員に対して理事長名で注意喚起を行っております。

今後もしフェーズがさらに悪化の方向に進めば、（あってはならないですが万一院内患者さまや職員の感染など生じることがあれば）さらに入退院の制限や出勤できる職員の減少により機能を落とさざるを得ないことも想定されます。

「Withコロナ」の情勢だからこそ当院は医療機関として責務を果たせるよう感染対策の一層の引き締めを行ってまいります。地域の皆さんとともに医療継続できるよう努力してまいりますので、引き続きのご協力よろしくお願いいたします。

外来入口でのAIサーモ体温測定実施

「With コロナ」　介護医療院グリーン三条としての取り組み

グリーン三条
事務長
駄賀　健治

６月以降、新型コロナウイルス騒動はやや落ち着いてきたかと思っておりましたが、７月現在、首都圏に続き、広島でも新たな感染者が増加し、まだまだ予断を許さない状況です。グリーン三条でも､長期にわたりご家族の面会を制限しております。

５月からご家族には写真をお渡ししたり、撮影した動画をみて頂いておりましたが、入所者さまからも「家族と話がしたい、顔が見たい」という声をいただき、６月１日からオンライン面会を実施してみました。タブレット２台を用い、１階と２～4階とでお互いの顔を見ながらの会話となります。涙を流しながら家族と会話される利用者をみると、こちらまで感動してしまいました。６月末からは、予約制、時間制限を設けての面会を段階的に実施しておりましたが、呉医療圏感染者数の再増加により、再度リモート面会に切り替えるなど状況に応じた判断をしております。

家族の面会制限や取引先様の立ち入りも制限をしている以上、施設に感染が持ち込まれるルートとして一番可能性の高いのは職員の感染によるものです。日常の健康管理、マスクの着用、こまめな手洗い、手指消毒はもちろんのことですが、感染すると重篤な症状となることが予想される入所者さまが多くいる当施設では、さらに神経質になっております。日々心身のストレスと闘いながら業務に取り組んでいる職員にプライベートまで行動の制限をすることは心苦しくはありますが、県外への外出時の届け出や、感染の恐れのある場所へ行くことの自粛等をお願いせざるを得ない状況です。業務にあたっても、担当階以外への移動を極力禁止し、夜勤職員体制を増員するなどして、万が一感染がおこった場合もその拡大を事前に防ぐべく、空間を複数に仕切るなどして対応をしております。お昼休みはみんなで会話をしながら楽しくランチをしてもらいたいところでありますが、感染予防のためと、職員のみなさんは壁に向かって無言で食事をしています。これらもすべて入所者さまの安全を守るためと、職員全員で予防に取り組んでおります。

世間では感染予防のための新しい生活様式を取り入れて、少しずつ日常を取り戻しつつあります。グリーン三条も生活施設ですので、入所者さまの皆さまにも食事の方法やレクリエーションの方法などについても、新しい生活様式を参考にして、日々過ごしていただこうと試行錯誤中です。長期戦を覚悟してはおりますが、日常生活の質を落とさずにケアをしていける取り組みを目指していきます。

ご家族の皆様には、長らくのあいだ大変不便をおかけしておりますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

タブレットによるオンライン面会の実施風景

新MRI始動～新技術の詰まった中四国初導入の機器～

8月よりMRI更新に伴い検査等でご迷惑をおかけしておりましたが、9月17日より稼働を開始しております。

この度、SIEMENS社製の1.5T(テスラ）のハイエンド機種へ更新しました。

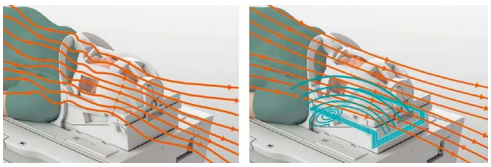
同モデルは2019年に発売開始され、中国四国地区では当院が初導入となります。（＝写真）

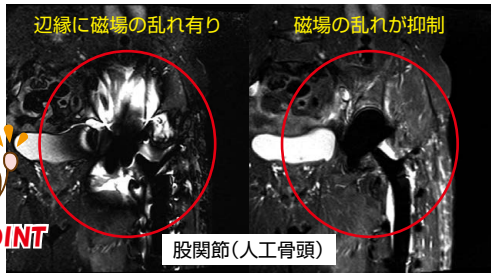
特徴としましては大きく分けて3つです。

1．より美しく！

複雑な形状のため安定した脂肪抑制が困難な頭頸部領域においても、被験者ごとに磁場調整することにより局所的な磁場の乱れを高精度に補正し脂肪抑制効果を安定して実現し、診断能の高い画像の提供が可能となりました。（＝写真上･中）

さらに高度な体内金属からのアーチファクト抑制技術を導入しました。（＝写真下）





2．より速く！

撮像時間短縮のために高速撮像技術パラレルイメージングに加え最新の圧縮センシングに加え多段面同時励起＆収集を統合的に組み合わせた高速撮像パッケージを導入。

検査部位や検査目的に応じて2D・3D撮像どちらにも適応でき、ルーチン検査の撮像時間最大50%短縮が可能となります。

3．より快適に！

検査時に入っていただくトンネルが大口径の70cmに（面積で30%広く）なり、閉塞感が緩和されるとともに、体位の制限を受け難くなります。（＝写真左）

頭頸部コイルは傾斜機能付ですので、円背の方の苦痛も和らげてくれます。（＝写真右）

検査中の騒音も比べ物にならないほど静かになりました。

今までは長時間の体位保持が困難な方や、高齢者、小児などMRI検査に消極的になっていた患者さまに対しても、抵抗感を少なく検査を受けていただけるような機種であると思っています。

呉中通病院としましては、地域における役割を認識したうえで今後も地域のニーズにお応えできるよう努めてまいります。

（文責：画像診断科　科長　**日山　博則**）

（写真提供：シーメンスヘルスケア）

訪問リハビリテーション一周年

呉中通病院
訪問リハビリテーション
運営責任者
沖本　敦志

この８月１日で呉中通病院で訪問リハビリテーションを開始して丸1年が経ちました。昨年の8月1日は良く晴れた日で、初めて訪問に向かうとあって少し緊張していたのを憶えています。当初は利用者さま３名で始まった当訪問リハビリテーションも、今では30名余の方々にご利用いただいております。スタッフ数も、最初は理学療法士２名でのスタートから、今では理学療法士３名、作業療法士２名、言語聴覚士１名が勤務しています。季節も一巡りし、台風、寒風、花粉、梅雨といった移り変わる天候等にも振り回されたり打ち克ったりしながら訪問してきました。時には道に迷い、時にはガス欠の恐怖と戦ったりもしながら、地域という広いフィールドで動き回ることのノウハウも学んでいるところです。

一口に訪問リハビリテーションと言っても、行う内容は多岐に渡ります。実際に利用者さまのご自宅を訪問してリハビリテーションを行う中、一人ひとりでお体の状態が違えば、地域によって自宅周囲の環境も違い、ご自宅の作りも違う等、本当に千差万別だということを実感しています。一つとして同じ状況のないことに対し、適切な評価をし、適切なリハビリテーションを行うことの難しさを実感しつつ、どうすればよりよくなっていただけるかを考えています。悩むこともありますが、利用者さまとスタッフの頑張りが結実した時の喜びを糧に、努力し続けています。

開始からわずか１年ですが、地域の開業医の先生方、ケアマネジャーの方々や様々な居宅サービス事業者の方にご指導賜りながら、呉という地域で活動を続けることができており、感謝しております。今後も、増え続けるニーズに応えていけるように、リハビリテーションを提供できる人員の確保を進めてまいります。

そしてより良いリハビリテーションを提供できるよう日々研鑽を重ね、これからも地域の皆様の望みや思いに寄り添い、それを実現できるよう尽力して参ります。

訪問リハビリテーションスタッフ集合写真

呉中通病院 地域連携室便り

様々な病院、医療福祉機関、介護サービス事業所の皆様に支えられながら、またこの季節がやってきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。さてこの度当院地域連携室に新しいスタッフ根本有加が入職しました。ポテンシャル高く、勉強熱心です。また「聴く」という姿勢を大切にしていますので今後たくさんの方と信頼関係を築いていけると思います。現在全世界を取り巻いています「サイレント・キラーウイルス」との戦いは改めて医療従事者としての原点を思い起こさせて、大事なことを気づくきっかけを与えられているように感じます。まだまだ先が見えず不安なことが多いですが地域が一丸となれば様々な未来を支えていけると信じています。新人スタッフ含めてご迷惑をかける場面も多いかもしれませんが職員一同心を込めて関わって参りますので今後ともご指導よろしくお願いいたします。

地域連携室　主任　**相澤　由美**

中川会 居宅介護支援事業所便り

現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。
一つの街から全世界に広がってしまいました。
今、高齢者が非常に危ない環境に置かれています。
コロナウイルス感染では、かなりのリスクがあります。
この真下、時々次の言葉が思い浮かびます。

第２回高齢者問題世界会議(スペイン・マドリード、2002年４月８日～ 12日)におけるコフィー・アナン元国連事務総長の演説の中で話された言葉で次のフレーズがあります。

「アフリカでは、老人が１人亡くなると図書館が１つ消えるといいます。地域によって言い回しは違うかもしれませんが、この言葉が意味するところは文化にかかわらず真実です。高齢者は、過去と現在、そして未来を結ぶ仲介者なのです。その知恵と経験は、社会にとってかけがえのない宝です。」

人生の数だけ図書館、いやそれ以上のものがあります。

新型コロナウイルスが近づいて来る真下、より一層、高齢者の健康管理に配慮していきたいと思います。

居宅介護支援事業所　所長　**中川　　学**

グリーン三条 介護支援相談室便り

新型コロナウイルスが猛威をふるい、見えない敵に不安を感じながら業務を行っています。２月末から長期にわたり面会制限を実施し、ご家族の皆様には大変ご不便をかけております。６月末に一時期収束の気配を受け、時間制限等を設けながら一部面会を解除しておりましたが、再度感染が拡大傾向となり、お盆の間も面会を制限していました。オンライン面会をしたり、こちらから入所者さまの様子をお伝えするなどしてはいましたが、「一目でいいから、ガラス越しでも良いから顔が見たい。」「高齢の母にとっての1カ月はものすごく貴重な時間なので会わせてもらえないか。」など、ご家族の悲痛な思いを考えると胸が痛みます。それでも高齢者の命を守る行動をとること、ウイルスを持ち込まないことを第一優先にした対応が求められます。感染の収束が見えない状況ですが、多くの災害を経験した日本人、広島人として利用者や家族の笑顔が増えるように頑張りたいと思います。新型コロナに負けないぞ！！

グリーン三条　介護支援相談室　**馬越　律子**

全病棟365日リハビリテーション開始
～信頼される回復期を担う病院を目指して～

令和２年４月１日から回復期リハビリテーション病棟に加え、一般病棟と療養病棟の入院患者さまに対して365日リハビリの提供を開始しました。

急性期治療を終えてリハビリ目的で当院に転入院される患者さまの多くは、まず一般病棟に入院してリハビリを受けていただいています。このたび全病棟365日リハビリ体制になったことで、早期からの適切なリハビリ量の提供により、患者さまの廃用症候群予防やADL向上をより早く行うことができると考えています。療養病棟では、回復期リハビリ病棟対象疾患以外の患者さまに対しても日祝日のリハビリ提供を実施していくことができるようになりました。

回復期を担う病院として、リハビリの質と量の向上に努めて、信頼される病院を目指していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

リハビリテーション部　副部長　**栗原　賢**

中川会 BCP作成はじめました

令和３年３月末を完成目標に、BCP（事業継続計画）を作成することになり、プロジェクトを立ち上げました。

BCPといえば平成23年の東日本大震災を機にその必要性と内容の見直しが注目されましたが、わたしたち中川会も平成30年７月豪雨でその必要性を身につまされる経験をしています。この経験を今後に役立てるためにも、令和元年７月からBCP作成のためのプレ準備を始め、同年11月に「医療法人社団中川会BCP作成プロジェクト」を発足しました。

現在は４事業所の各部署から32名のプロジェクトメンバーと事務局６名の総勢38名のプロジェクトメンバーが、各部署のリスクを洗い出しやその対策を作成しています。

とかく災害時のみを視野に入れた対策が作成されることが多いBCPですが、パンデミックや情報管理、品質サービスなどにも対応できるBCP作成を目指しています。

今はまだ中小規模の医療機関での作成事例は少ないため孤軍奮闘の感もありますが、地域の医療機関や他職種と情報交換をしながら、令和３年3月末の完成を目指してがんばっています。

人財育成課　課長　**平澤　知穂**

呉中通病院　院内チーム紹介

栄養サポートチーム（NST）

私は、現在栄養サポートチーム（以下NST）メンバーとして活動しています。当院のNST活動について簡単にお伝えします。平成30年５月に『適切な栄養管理と多職種によるアプローチで低栄養を防ぐ』を目的として「NSTミーティング」がはじまりました。月１回、医師・管理栄養士・リハビリスタッフ・薬剤師・臨床検査技師・医事課・摂食嚥下認定看護師が参加し栄養状態評価報告、各部署からの報告等を行いNST活動がより効果的に図れるよう努めています。他医療機関から歯科医師・歯科衛生士を招き講義や実地指導を行うこともあります。

NSTラウンドは、週1回実施しています。ラウンド参加者は、医師・管理栄養士・看護師・言語療法士の他、必要に応じて理学療法士が介入しており、この事は当院の強みであると感じています。一人でも多くの患者さまに栄養障害の改善を図れるようチーム一丸となり、食べる喜びを伝えられるようこの活動に取り組んでいきたいと思います。

回復期リハビリ病棟　看護主任　**山口　　衛**

編集後記

広島県は、**感染しない、させない“新しい日常”**をスローガンに新型コロナウイルス収束に向けた「新しい生活様式」を要請しています。

真夏日が続くスカスカの電車の中、乗客全員がマスクを着用し静かに下車していくことや、院内のオンライン会議、院外のオンライン研修に新鮮さを感じなくなったことが、自分の周りの“新しい日常”のひとつなのかもしれません。

また、個人的にはコロナ禍の影響で仕事の帰りに、自宅から徒歩1分圏内にある業界1位のコンビニを利用することが増えました。買った商品を見ると、つくづく自分は新発売と期間限定の言葉に弱いと実感しています。
いつ利用しても新商品があるのでHPで調べてみると、1週間に出る新商品の数は100品目以上にのぼり、新商品の7割が1年で入れ替わっていました。「ライバルは競合店ではない、顧客のニーズの変化である」創業者の鈴木敏文氏の言葉です。常にお客さまのニーズの変化に対応していることがわかります。

9月13日の中国新聞の地域面（呉・東広島）に、**『伝統の「やぶ」出番減る』**のタイトルで今年の祭りはもみ合いや行列は自粛する旨の記事が掲載されていました。真夏のマスクや「やぶ」のいない祭りが、期間限定の“新しい日常”となり、あたらしい世界、あたらしい日常がやってくるのを心待ちにしています。

ところで、9月21日で中川会は創立50周年を迎えることができました。これも偏に地域の皆さまのご指導・ご鞭撻の賜物と厚く御礼を申し上げます。今後も地域の皆さまのニーズの変化に対応し信頼される法人をめざし、地域の医療・介護・福祉サービスと連携の一層の充実を図って参りますのでよろしくお願いいたします。　（森光）

医療法人社団 中川会 **呉中通病院**
●訪問リハビリテーション
〒737-0046　呉市中通１丁目３番８号〔JR呉駅より徒歩5分〕
TEL(0823)22-2510　FAX(0823)22-2514

介護医療院 **グリーン三条**
〒737-0821　呉市三条１丁目３番14号〔JR呉駅より徒歩7分〕
TEL(0823)23-0303　FAX(0823)23-0642

中川会居宅介護支援事業所
〒737-0046　呉市中通１丁目３番８号
TEL(0823)69-4441　FAX(0823)69-1160

2020.10.1000